

特集

おかげさまで設定10周年
**モルガン・スタンレー
グローバル・プレミアム
株式オープン**
幾度のショックも乗り越えた強さの秘密



**モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン
(為替ヘッジなし) / (為替ヘッジあり)**

追加型投信 / 内外 / 株式

- ・モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジなし)
- ・モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジあり)

●当資料では、「モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジなし)」を「為替ヘッジなし」、「モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジあり)」を「為替ヘッジあり」、ならびにこれらを総称して「モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン」または「当ファンド」、略称の「グロプレ」ということがあります。

※当資料はモルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジなし)/(為替ヘッジあり)についてご紹介するために概略を記載したものです。このため、ファンドの商品性、リスク、お申込みメモなどについては投資信託説明書(交付目論見書)をご確認いただく必要があります。

設定・運用は

三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

10周年記念特設サイト公開中!

https://www.am.mufg.jp/lp/msgp_10th



※巻末の「三菱UFJ国際投信からの留意事項」を必ずご覧ください。

三菱UFJ国際投信が設定・運用する「モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジなし)/(為替ヘッジあり)」は2022年2月17日に設定から10周年を迎えた。設定来から2022年2月末までの約10年間の為替ヘッジなしの設定来リターンはプラス295%と基準価額(分配金再投資)は約4倍に、また、モーニングスターレーティング(総合)も2019年2月から36ヵ月連続で最高位の5ツ星を獲得している。良好な運用成績を残している同ファンドについて、三菱UFJ国際投信常務執行役員の村田淳生氏と、運用委託先のモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッド インターナショナル・エクイティ運用チーム 運用責任者のウィリアム・ロック氏に聞いた。

実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

——良好なパフォーマンスを残し得たポイントは何でしょう？



三菱UFJ国際投信株式会社
常務執行役員

村田 淳生氏

村 田 氏： おかげさまでグロプレは2022年2月17日に設定10周年を迎えました。多くの投資家の皆さまにご愛顧いただき、無事10周年を迎えられたことを大変うれしく思っております。グロプレは、世界各国の株式の中から、高いブランド力、有力な特許、強固な販売網などを持ち、持続的にフリー・キャッシュフローを成長させることが期待される「プレミアム企業」に投資します。過去の大きな株価下落局面も乗り越えて成長を遂げられたのは、競争優位性の高いプレミアム企業の成長力と市場の下落局面における下値抵抗力の強さがあったからではないでしょうか。グロプレで活用する運用戦略*は、過去、株式市場の下落局面で下値抵抗力を発揮することで、下落後においても、価格が元の水準に戻る(回復)までの期間が相対的に短く、回復力の強さを見せてきました。運用委託先であるモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドの運用チームが、当運用戦略を地道に継続した結果でもあると思います。

*「モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン マザーファンド(以下、マザーファンド)」の運用指図権限の委託先であるモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドによって運用されているファンドの運用戦略(＝グローバル・フランチャイズ運用戦略)のことであり、当ファンドが投資するマザーファンドと同様の運用プロセスを用いておりますが、当ファンドの運用実績とは異なります。

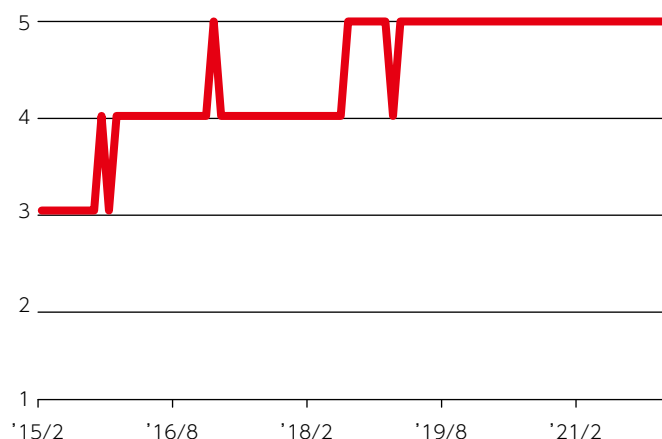
図表1：設定来のグロプレのパフォーマンスの推移



(期間) 2012/2/17(設定日)～2022/2/28、日次

- パフォーマンスは、基準価額(分配金再投資)を使用しています。基準価額(分配金再投資)は、1万円当たりであり、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
- 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

図表2：モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジなし)のモーニングスターレーティング(総合)の推移



(出所) モーニングスター作成

(期間) 2015年2月～2022年1月、月次 評価基準日: 毎月末

- 上記はモーニングスター社による過去の一定期間の実績をもとに評価したレーティングであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。詳細は後記の「モーニングスターレーティングについて」をご覧ください。

※巻末の「三菱UFJ国際投信からの留意事項」を必ずご覧ください。

ウィリアム・ロック氏：当ファンドの投資哲学は、堅牢な利益（景気に大きく左右されにくく継続して利益をあげることを有する企業を特定することと、企業の利益がなくなることによる投資金額の元本毀損リスクを最小化することであり、そのためにはポートフォリオで保有する企業が、市場が好況な時も困難な時も、長期にわたり利益をレジリエントな（耐久性ある）方法で増やせることが必要だと考えます。

2021年12月末時点までの設定来のポートフォリオ組入銘柄の変化としては、生活必需品企業の保有を減らし、情報技術とヘルスケア企業を増やしました。情報技術は、クラウドが成長の強力な原動力になっています。一方、ヘルスケアでは、私たちが求める継続的な売上能力を有すると考える医療機器、および、診断分野における企業を新たに発掘することができました。

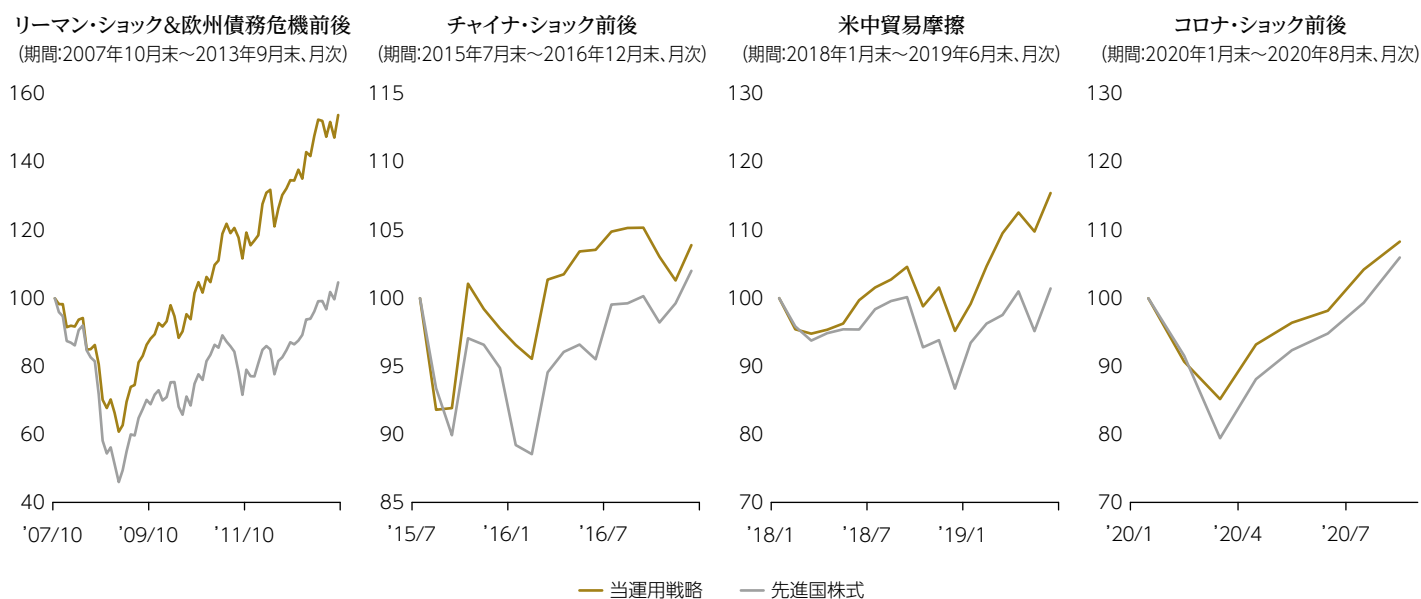


モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッド
インターナショナル・エクイティ運用チーム
運用責任者
ウィリアム・ロック氏

下記は、モルガン・スタンレー・グローバル・フランチャイズ・コンボジット*（以下、当運用戦略）のパフォーマンスを表しています。当運用戦略は、マザーファンドの運用指図権限の委託先であるモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドによって運用され、当ファンドが投資するマザーファンドと同様の運用プロセスを用いておりますが、当ファンドの運用実績とは直接的な関係はありません。また、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。当運用戦略の設定日は1996年3月31日。

*コンボジットとは、運用のパフォーマンス測定のため、類似の投資目的、投資戦略に基づき運用される複数のファンドをまとめたものをいいます。また、市場推移の参考として先進国株式指数と比較していますが、当指数は当ファンドのベンチマークではありません。当運用戦略のデータの算出基準は、2021年4月時点から変更されています。そのため一部過去データが変更されています。

図表3：（ご参考）当運用戦略の下落局面のパフォーマンス



（出所）モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

- 先進国株式においてそれぞれのイベントの下落前を起点とし、月末ベースで下落前の水準を安定的に回復するまでの期間を計測しています。
- 各期間の始点=100として指数化
- 当運用戦略は、運用報酬控除前、米ドルベース、配当および収益再投資のパフォーマンスを表しています。
- 先進国株式は、MSCI ワールド インデックス（税引き後配当込み米ドルベース）を使用しています。同指数に対する著作権およびその他の知的財産権はすべて MSCI Inc. に帰属します。
- 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、為替・税金・手数料等を考慮しておりません。

※巻末の「三菱UFJ国際投信からの留意事項」を必ずご覧ください。

——ファンドが投資している「プレミアム企業」について、具体例をあげて解説してください。たとえば、「フィリップモリス」はたばこ会社であり、一見すると世界的な健康志向が逆風になる企業に思えますが、なぜ、投資をしているのでしょうか？

ウィリアム・ロック氏： フィリップモリス(2021年12月末時点組入第2位)は、たばこ会社の中では、有煙たばこによる健康被害の削減に最も真剣に取り組んでおり、ESGのS(社会)の観点で非難される余地は少ないと考えます。同社の加熱式たばこのIQOS(アイコス)は発売した多くの国でシェアを拡大しています。米国のFDA(食品医薬品局)によるMRTP(Modified Risk Tobacco Product)認定(2020年7月)からも、IQOSはニコチンを摂取する商品としては低リスクである事が示され、今後も有煙たばこを代替していくと期待されます。

また、たばこ会社一般の魅力として、設備投資が殆ど無いため純利益のほぼ全額がフリー・キャッシュフローになり、配当や自社株買いが容易です。寡占産業であることに加え、ほとんどの先進国では広告が制限されているため、新規参入が難しいこと、エマージング国では人口増で需要が維持され易く、更に値上げの余地が大きいことなど、収益の安定的な成長を期待しています。

——ハイテク企業の中でマイクロソフトには投資し、アップルには投資していません。この違いは？

ウィリアム・ロック氏： 持続的に安定したキャッシュフローを生み出し続けるには、支配的な無形資産(価格決定力と継続的な売上に貢献)と、高い投下資本利益率を維持できる経営陣の高い能力が必要です。継続的な売上は損益計算書のトップライン(売上)を維持し、価格決定力は利益率を維持します。また、ポートフォリオの下値抵抗力的ためには、妥当な株価バリュエーションが必要です。これらの観点から米国を代表するハイテク企業を見た場合、マイクロソフト(2021年12月末時点組入第1位)が有力と考えています。

マイクロソフトで特に重要な無形資産は「ネットワーク効果」だと考えています。具体的には、世界中のコンピューターのOSの多くがWindowsであり、ユーザーはWindowsをアップデートし続ける可能性が非常に高いこと、そして、世界中のコンピューターソフトウェアの多くがWindowsで使い易い同社の製品で、これもユーザーがアップデートし続ける可能性が非常に高いことがあげられます。また、経営陣の能力では、ナデラCEOの貢献は卓越しており、2014年に就任して以来、同社の活力は高まり、有力な技術革新の先頭に立っていると考えます。



また、米国の代表的ハイテク企業の多くはプライバシー・データや独占禁止法関連の論争の渦中にありますが、同社は2000年代始めまで続いた独占禁止法違反訴訟からの教訓で幅広いステークホルダーに配慮する姿勢があり、訴訟リスクも低いと考えます。2021年12月末時点の株価バリュエーションは割安では無いものの、当運用戦略の許容範囲にあります。

なお、アップルに関しては、成長の条件を全て満たしているものの、投資対象にはしていません。その理由は、収益の基盤がiPhoneである事です。過去に見られたモバイル端末の栄枯盛衰を勘案すると、アップルの10年後を予想する事は困難だと考えます。我々は10年後まで想定した株価評価モデルを作成し、株価の妥当性を判断しています。

※上記は一例として主な企業およびそのブランド・製品を紹介したものであり、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、また当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。

——「コロナ禍」が残る中で「インフレ」への対応も必要とされる難しい経済環境になるとの見方があります。ファンドは、どのような運用で市場に対処していこうとしているのでしょうか？

ウィリアム・ロック氏：既に米国で顕著なインフレは、足元の高水準が今後は収まったとしても、長期的に続く想定されます。企業にとってインフレはコスト増加、つまり、利益減少要因であり、株式市場全体としてパフォーマンスの低下につながると考えます。

また、コロナ禍を経て企業が潤沢な在庫を重視していること、労働力不足または行政方針で労働分配率が上昇していること、さらに、ESGに対処するコストが必要なため、コスト増は続くと考えます。加えて、インフレ以外にも、足元の高い企業利益に寄与している諸要因（低い法人税、低金利、高い利益率）が今後は逆転する可能性が高く、更に世界経済成長に対するショック（中国の成長鈍化等）が株価に織り込まれていないと考える事を勧告すると、株式市場全体としてのパフォーマンス悪化を想定する必要があるでしょう。

このような環境では当運用戦略の優位性が高まると想定しています。なぜなら、コストが上昇する局面では、価格決定力が非常に重要になるからです。また、インフレ環境では景気サイクルが短期化する可能性が高く、売上が変動し易くなるので、当運用戦略が志向する継続的な売上を有する企業の価値が高まるとも考えられます。

——最後に「これからの10年」に向けた抱負をお聞かせください。

ウィリアム・ロック氏：素晴らしいコンパウンダー企業（優位性を保持し着実に成長が期待されるクオリティの高い企業）に適切な株価で投資を行うという、私たちの投資スタイルの基本は変わらないでしょう。一方で、過去10年もそうであったように、それら企業をどこで発掘できるかは常に進化していくと思います。これからは、現在投資をしていないセクターやエマージング株の保有もあり得ると思います。

村田氏：グロブレで活用する運用戦略は、1996年3月の運用開始来、2022年1月末時点で25年以上にわたる運用の実績があります。運用チームが目指しているのは、有力な無形資産や価格決定力、高い利益率を裏付けに企業価値を拡大し続ける銘柄＝プレミアム企業に集中投資を行うことにより、短期的な相場の変動や景気サイクルに左右されない持続的な果実を獲得することです。

つみたてNISA制度導入後、積立投資で資産形成をしていこうという機運が急速に高まっています。積立投資は投資タイミングにおける時間分散と継続的な積立による長期投資が前提になっていると考えており、積立、保有継続、回収（取り崩し）という時間の流れを見据えたうえで適した投資対象ファンドを選択する必要があります。その観点からも、中長期的な値上がり益の獲得を目指すグロブレをぜひご検討いただきたいと思います。



長期投資を志向するお客さまの資産運用の中核ファンドとしてこれからも永くご愛顧いただけるよう、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドの運用チームとともに努めて参りたいと存じます。

当資料の記載事項は、過去の実績であり、将来の運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。市況動向及び資金動向等により当広告に記載のような運用が行えない場合があります。

ファンドの特色

特色

1

世界各国の株式のうち、プレミアム企業の株式に投資を行い、中長期的な値上がり益の獲得を目指します。

■当ファンドにおいて「プレミアム企業」とは、高いブランド力、有力な特許、強固な販売網など、競争優位の無形資産を裏付けに、持続的にフリー・キャッシュフローを増大させることが期待される企業を指します。

※プレミアム企業という名称は良好なパフォーマンスを示すものではありません。

特色

2

銘柄の選定に際しては、長期保有を視野に徹底的なボトムアップ・アプローチ*を行い、利益成長の持続可能性を多面的に分析します。

*ボトムアップ・アプローチとは、投資対象となる個別企業の調査、分析に裏付けられた投資判断をもとに銘柄選定を行い、その積み上げによりポートフォリオを構築していく方法です。

■収益性、財務内容の分析に加え、保有する無形資産や経営陣の質などから利益成長の持続可能性を多面的に分析します。

■原則として、厳選した20~40銘柄に集中投資を行います。

■株式の組入比率は、原則として高位を保ちます。

特色

3

モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドに運用指図の権限を委託します。

■モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッド(所在地:英国ロンドン)は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの欧州拠点です。

■モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントは、世界各国に拠点を持つグローバル総合金融機関であるモルガン・スタンレーの資産運用部門で、株式運用において大手の資産運用グループの一つです。

特色

4

為替ヘッジの有無により、「為替ヘッジあり」および「為替ヘッジなし」があります。

■「為替ヘッジあり」は、外貨建資産について、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。為替ヘッジに関しては、委託会社が行います。

※一部の通貨については、その通貨との相関が高いと判断される代替通貨により対円で為替ヘッジを行うことがあります。

■「為替ヘッジなし」は、外貨建資産について、原則として為替ヘッジを行いません。

特色

5

年1回決算を行い、収益の分配を行います。

■毎年2月23日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

収益分配方針

- ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます)等の全額とします。
- ・委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して、分配金額を決定します(ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合もあります)。

将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。

ファンドのしくみ

ファミリーファンド方式により運用を行います。

ファミリーファンド方式とは、受益者から投資された資金をまとめた投資信託をベビーファンドとし、その資金の全部または一部をマザーファンドに投資して、マザーファンドにおいて実質的な運用を行う仕組みです。なお、当ファンドはモルガン・スタンレーグローバル・プレミアム株式オープン マザーファンドを通じて実質的な運用を行います。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

※巻末の「三菱UFJ国際投信からの留意事項」を必ずご覧ください。

投資リスク

基準価額の変動要因:基準価額は、株式市場の相場変動による組入株式の価格変動、為替相場の変動等により上下します。また、組入有価証券等の発行者等の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の影響を受けます。これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。主な変動要因は、株価変動リスク、為替変動リスクです。上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。くわしくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ファンドの費用

○お客様が直接的に負担する費用

■購入時

[購入時手数料]

購入価額に対して、**上限3.30%(税抜 3.00%)**(販売会社が定めます)

■換金時

[信託財産留保額]

ありません。

○お客様が信託財産で間接的に負担する費用

■保有期間中

[運用管理費用(信託報酬)]

各ファンドの日々の純資産総額に対して、**年率1.980%(税抜 年率1.800%)**をかけた額

[その他の費用・手数料]

監査費用、売買委託手数料、保管費用、その他信託事務処理の諸費用等

(その他の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。)

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。

モーニングスターレーティングについて

モーニングスター社では、3年以上の運用実績を有するファンド(注1)に対して、定量データに基づき5段階のモーニングスターレーティングを付与している。具体的には、あるファンドが同じモーニングスターカテゴリ(「国内大型ブレンド」など)に属するファンド群と比較して、運用効率(シャープレシオ:注2)が高ければ★の数が増える仕組みで、最上位は5ツ星(★★★★★)である。レーティングは、直近3年間、5年間、10年間のほか、それらのより長期のレーティングが重視されるよう加重平均した「総合」を公表している。

注1:国内公募追加型株式投信(確定拠出年金向けファンド及びラップ口座専用ファンド、ETF等を含む)が対象。

注2:リスク調整後のリターンを計る指標。2つのファンドが同じリターンであれば、リスク(リターンのブレ幅)が小さい方がシャープレシオの値が高くなる。同様に、同じリスクであれば、リターンが高い方がシャープレシオの値が高くなる。厳密には、モーニングスターが独自に算出する「モーニングスターリターン」と「モーニングスターリスク」によってリスク調整後のリターンのスコアを測定し、レーティングを付与している。

三菱UFJ国際投信からの留意事項

- 当資料は三菱UFJ国際投信が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

販売会社情報一覧表 お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、下記の販売会社まで

ファンド名称:モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジなし)/(為替ヘッジあり)

2022年02月28日現在

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3283号	○	○		
株式会社愛知銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第12号	○			
株式会社あおぞら銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第8号	○		○	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
株式会社イオン銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第633号	○			
いちよし証券株式会社(IFA専用)	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第24号	○	○		
エース証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第6号	○			
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
岡崎信用金庫(為替ヘッジなしのみ取扱)	登録金融機関 東海財務局長(登金)第30号	○			
岡三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
株式会社熊本銀行	登録金融機関 九州財務局長(登金)第6号	○			
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2938号	○			
株式会社京葉銀行(為替ヘッジなしのみ取扱)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第56号	○			
七十七証券株式会社	金融商品取引業者 東北財務局長(金商)第37号	○			
株式会社十八親和銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第3号	○			
株式会社十六銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第7号	○		○	
新大垣証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第11号	○			
株式会社新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○	
ソニー銀行株式会社(為替ヘッジなしのみ取扱)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第578号	○		○	○
第四北越証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第128号	○			
株式会社中京銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第17号	○			
中銀証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第6号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
東洋証券株式会社(IFA専用)	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号	○			○
南都まほろば証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第25号	○			
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長(金商)第75号	○			
野村證券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
PWM日本証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第50号	○			○
株式会社百五銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第10号	○		○	
百五証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第134号	○			
株式会社百十四銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金)第5号	○		○	
広島信用金庫	登録金融機関 中国財務局長(登金)第44号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第152号	○	○		
株式会社福井銀行	登録金融機関 北陸財務局長(登金)第2号	○		○	
株式会社福岡銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第7号	○		○	
PayPay銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第624号	○		○	
株式会社北洋銀行	登録金融機関 北海道財務局長(登金)第3号	○		○	
株式会社北洋銀行 (委託金融商品取引業者 北洋証券株式会社)	登録金融機関 北海道財務局長(登金)第3号	○		○	
北洋証券株式会社	金融商品取引業者 北海道財務局長(金商)第1号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
丸八証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第20号	○			
株式会社三菱UFJ銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
株式会社三菱UFJ銀行 (委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第33号	○	○	○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第38号	○			
株式会社横浜銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第36号	○		○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

※今後、上記の販売会社については変更となる場合があります。